

Al-Haut

写真的な手法で幻想的なタトゥーを描くための

Al-Haut(アル・ハウト)とはアラビアの占星術に出てくる
十二星座のひとつで、魚座という意味
女性ならではの感性と、独自のセンスが絡み合い
ファンタジックな作品の数々が誕生する
繊細で新たなオリジナル感が漂う店内は
その雰囲気ですでにアナザーワールドとなっている
大阪一の繁華街、アメリカ村の雑踏を後に、いま扉を開く。

photo by ConDoll Photo report by tattoo tribal



棕妃

Tattoo
Artist

TATTOOTRIBAL vol.12 ARTIST INTERVIEW #03
Al-Haut



自分の気持ちに従った アーティストへの一歩

大学時代に好きなバンドの影響でフンボイントの花を入れた。まだショップ、スタイルのお店も少ない時代だったが、すぐに棟妃（フスオス）氏はタトゥーを彫るといふことに興味を持った。
「昔から絵を描くのが好きで、だから出来るんじゃないかって正直に考えてしまっただけ。実際、今振り返ると、絵描けるだけじゃダメだよって感じなんですけど

ね」

大学も4年生になり、就職活動が始まるうとしていた頃だった。自分出来る仕事は何だろうと考えていた当時、彫り師になりたいという気持ちしかなかった。「1年間自分と相談して、やっぱり気持ちが変わらなかつたので、卒業してすぐ彫り師になるための勉強を始めました」しかし、まだ情報も何もない時代、すべては独学でのスタートだった。「始めはもう注文通りにやるだけで一杯でした。本で見たことあるような月



並みなデザイン。そこには私の個性だとかは一切なかったです。技術的にもまだまだやっただけで、とにかくお客さんに満足してもらうために、綺麗に彫るということで精一杯でした」

そんな彼女が自分の色、というものを意識したのは朝と早く助けた。

「ここでお店をやるようになって、お客さんが増えてきて、そのうち、打ち合わせのときに私のほうから、こういう楽曲気どう？ってお客さんのデザインに提案を加えていってみたら、お客さんもそ



れてオンゲーってなる場合があった。その場合は自分らしさを出していいことだと思います。でも理想から現実に行動を移すまでが長くて、やっとこ一年くらいですかね。また最近だと思えます」

好きな画家は、キユスターフ・モロー、ギリシア・ローマの古典、聖書の世界、オリエントの異教世界を描く画家だ。

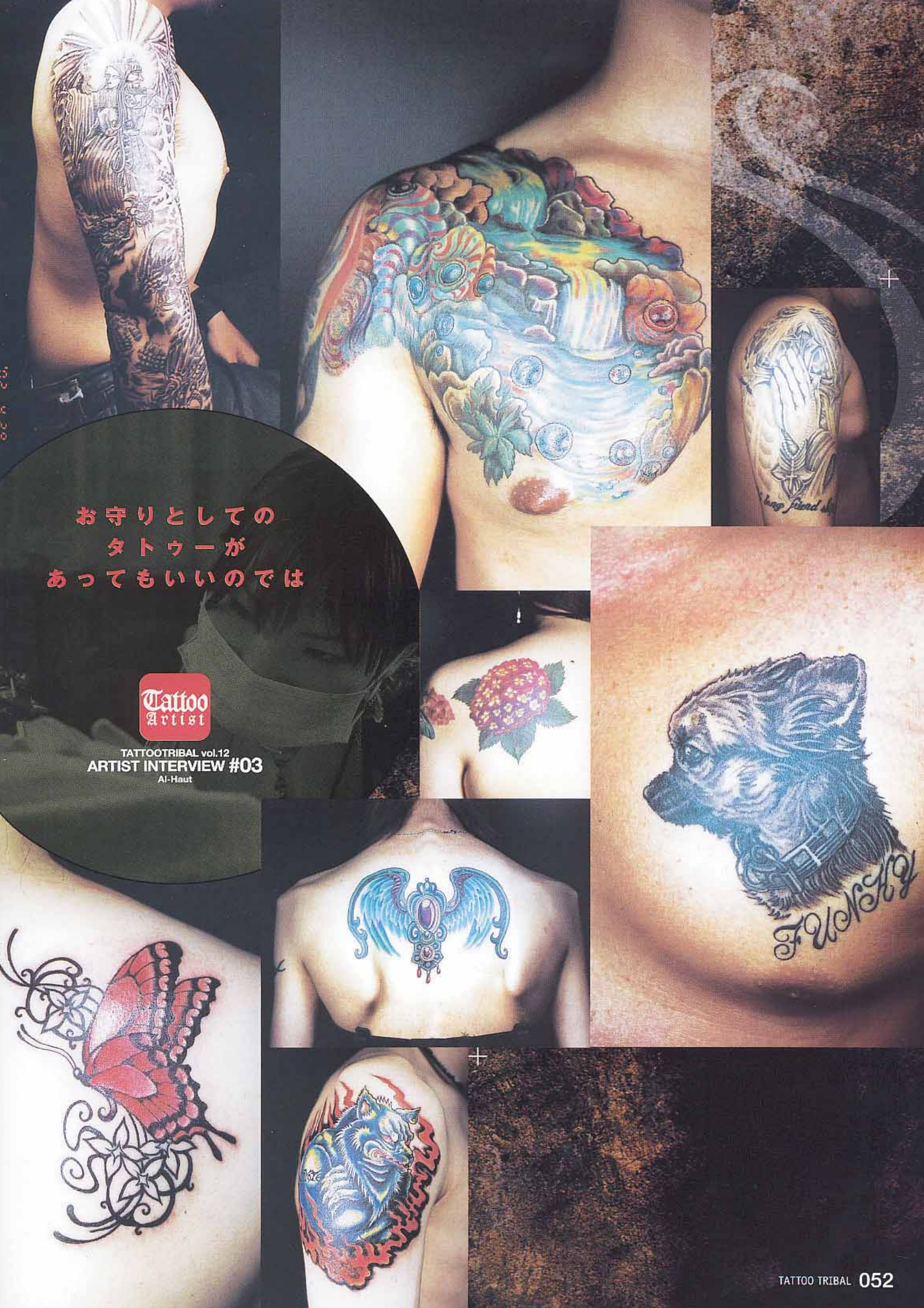
「神秘的なもの、神秘的なものをモチーフに、写実的に表現する。写実的に描くという事は、フライング・タトゥーにも共通点があって、自分もやりたいな

って思っていることですね」

フライングとよばれる絵画的なタトゥーを表現するには、紙の上とは決定的に違うものがあるという。

「どれたけクラクションをさせるかってことなんです。紙だったら何回も色を重ねていくうちに自然とぼかされていくんですけど、タトゥーの場合はやり過ぎると肌を痛めちゃう。限界がある。そこを克服して、紙に描いたような自然な色合いをたせるようになりたいなって」





お守りとしての
タトゥーが
あってもいいのでは

Tattoo
Artist

TATTOOTRIBAL vol.12
ARTIST INTERVIEW #03
Al-Haut

「呪術」も技術も「タトゥー」も、
オリエントからタトゥーが来る

「大学では文学部の史学科に入り、インド・中近東の歴史を勉強しました。とくに、ペルシア（イラン）の宗教であるゾロアスター教の研究をしていました。現在、ゾロアスター教徒はインドのグジャラート州に多く住んでいます。うちの大学とグジャラート大学が交換留学をしていたので、交換留学生として3カ月留学し、ゾロアスター教徒のリサーチをしました。中近東の歴史、ゾロアスター教の神話・伝承がタトゥーの図案に応用できるので、大学でそのときに学んだことは



役に立っていると思います。」
中近東の文化とファイインラインタトゥーの融合は、彼女が求める独自のスタイルといえる。そして、「ニール・ハウトには、もう一つ特別なタトゥーがある。「Talismanic Tattoo」である。語源の「Talisman (タリスマン)」とは、願望や希望を叶える魔術的シンボルのことである。「タリスマンの選定をしてもらっている呪術師の先生とは10年の付き合いで、呪術を実践している方です。お客さんがタトゥーを彫る理由の底には、自分のお守りにしたいという気持ちがあることに気付いて、それなら本当に効力があるお守りをタトゥーにしてはどうかと思っ

じめました。お客さんにどうい護符をもちたいのか話を掘り下げて聞いて、お客さんの生まれもった性質、願望から、こういうシンボルがあるよって先生が選んだものに、お客さんと私が相談して決めたデザインとを一緒に相対合わせ彫る。そして最後に効力をもたせる呪術をするんです。」
そんな彼女が今後描いていくスタイルはどのようなものなるだろうか。現在、ファイインラインタトゥーを彫るために彼女はデッサンの指導を受けている。「3年前から、基礎の基礎を、洋画家の先生のアトリエにお邪魔しています。音が聞こえたり動きのある作品を作りたい



と思っています。タロットカードにも興味があるので、将来的にはタロットの絵や意味を応用してタロットのフラッシュを作りしたい。今は呪術師の先生からタロットカードの理論を少しずつ教えてもらっています。なかなか自分の絵を描く時間がないんだけど、仕事とは別にタロットカードを描きたいなあと思っています。」
女性タトゥーアーティストというだけでは語れない、独特の感性とバックボーンすべてが溶け合った結果、そこには今までになかった新しい世界が広がって行くに違いない。



Al-Haut
棟妃氏
大阪府大阪市中央区西心斎橋2-10-14
アメリカ村八幡ビル4F-B-1 ☎06-6212-2990
e-mail: info@al-haut.com
HP: http://www.al-haut.com/
水曜日、第2・4木曜日定休

TATTOO TRIBAL vol.12
Tattoo artists

ARTIST INTERVIEW